

国語プリント No. ()

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

国語表現 課題研究 2006

2学期前半の国語表現は、以下の課題から一つを選んで作成・発表をおこなう。

課題 日本語に関するレポート
 課題 創作（パロディー or 後日談）
 課題 作詞

課題 日本語に関するレポート

テーマ

テーマ設定は日本語に関するものであれば、自由である。

〔例〕敬語について・故事成語について・言葉の乱れについて・気になる語について
 世間で言われている について・言葉のニュアンスの違いについて
 歌の歌詞に使われている語の変遷について などなど
**オリジナルティーのあるテーマオリジナルティーのある結論の出るテーマを選ぶこと。すでに
 まとめられているデータを調べなおしたり、集計し直したりしてまとめるものは不可**

分量

原稿用紙6枚以上（原稿用紙ノート12頁以上）

発表

プレゼンテーションソフトを使い、発表の時間を取り、発表をする。

課題 創作（パロディー or 後日談）

内容

みんながよく知っている作品のパロディーや、後日談を創作する。設定は元になる作品からあまり外れないこと。

分量

原稿用紙8枚以上（原稿用紙ノート16頁以上）。デジタルデータ化すること。

発表

発表の時間を取り、朗読してもらう。

で発表か？

課題 作詞

内容

みんながよく知っているようなクラシックの曲に日本語詞をつける。詞の内容は自由だが、首尾一貫していること。曲にぴったり当てはまるようにすること。

クラシック曲の音源は自分で用意すること。（CD、テープ、またはMP3ファイル）

分量

3分以上の曲の90%以上の時間帯に詞をつける。

発表

発表の時間を取り、歌ってもらう。

で発表か？



第1項授業の流れと日程

テーマ設定	最終決定	9月	日
（適宜個人面談をする）			
執筆	途中経過提出	10月	日
	最終締め切り	10月	日
発表会		10月	日
			（2学期中間考査前後）

第2項執筆について

最終的に清書用原稿用紙にペン書きして提出となる。原稿用紙の使い方が間違っている場合は全て書き直しとなる可能性がある。ワープロ入力可。その場合、プリントアウトしたものと、デジタルデータ（FD・USBメモリなど）を提出する。

第3項評価について

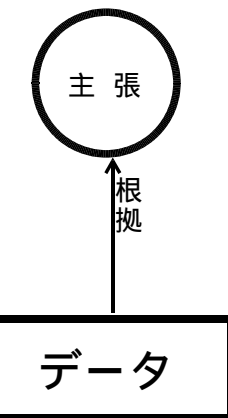
期限内に提出できない場合は、確実に赤点となる。

第4項企画書について

執筆の前に企画書をノートに書いて提出する。OKが出たらノートに執筆し始める。企画書は自分だけではなく、誰が見てもよくわかるように記しておくこと。

日本語に関するレポート企画書

タイトル
レポート作成のきっかけ（普段の疑問、どうしてそのテーマにしようと思ったのかなど）
調査方法（データ収集方法）
結論



論文には一定の型がある。主張・根拠・データが無ければ論文と言えない。その中でもデータがはつきりしていないと主張はすぐに崩れてしまうものとなる。初期段階ではデータ収集が一番重要な作業となる。
データは客観的なものでなければならぬ。「客観的」なデータとは、人を納得させるデータである。たくさん本や新聞からのデータ、またはたくさんの人対象のアンケート等である。
データは1次データを集めること。1次データとは自らが収集したものである。2次データとは誰かが調べて本や新聞、雑誌、テレビなどのメディアに発表したものを集めたものである。従って本に書いてあるものをそのまま引き写すことは認めない。また、様々な本や新聞などからある一定の基準で自分が集めたデータは1次データとなる。つまり、1次データとはオリジナリティーのあるデータということだ。

創作（ハロディー）企画書

タイトル
元となる作品の題名・著者名・初出年月（その作品が世に出た時期）
創作作品のあらすじ
工夫点（どのような方針で創作していくか。）

作詞企画書

タイトル
クラシック曲のタイトル・作曲者名・発表年
作詞のコンセプト
作詞の冒頭部